

養魚情報

No.01-04(175号)01.05.31.発行
大分県海洋水産研究センター
養 殖 環 境 部
0972- 32- 2155 ㊦136
(創刊:81- 5- 1)

病魚診断日誌

— Gift with a Golden Gun*(注射ワクチン人気上昇中) —

ビブリオ病とレンサ球菌症の2種混合注射ワクチンの発売が火付け役になったのか、ブリ養殖ではちょっとした注射ブームがおこっています。私達も、通常の魚病診断・指導業務に加えて、注射講習会の開催、指導書の発行、ワクチン投与の立ち会い等、あわただしい日々を送っております。

すでに何回も注射ワクチンを使用した方もあるでしょうし、使用までの手続きについては本紙157号で紹介済みですが、もう一度注射ワクチン使用に必要な事項をおさらいしておきます。

1. ワクチンの種類は？

使用できる魚種とサイズに注意

現在、使用可能な注射ワクチンは、3疾病に対して、

1) イリドウイルス病注射ワクチン

イリド不活化ワクチン「ビケン」(田辺製薬株式会社)

→ 5～20gのマダイ、10～50gのブリに使用可

2) ビブリオ病、レンサ球菌症2種混合注射ワクチン

ピシバック 注 ビブリオ+レンサ(共立商事株式会社)

→ 30～150gのブリに使用可

の2製品があります。また、経口ワクチンも種類が増え、レンサ球菌症に対して、

3) レンサ球菌症経口ワクチン

ピシバック レンサ(共立商事株式会社) → 100～400gのブリに使用可

アマリン レンサ(武田シェリング・プラウ アニマルヘルス株式会社)

→ 100～400gのブリに使用可(追加投与の場合は体重制限なし)

の2製品となりました。なお、新製品 のアマリン レンサは(初回投与から約3か

月後に)追加投与可能なワクチンですが、今回は注射ワクチンを中心に話を進めますので、この話題は次回以降に譲ることにします。

2. 注射ワクチンを使用するには？

講習会を受講しましょう

注射ワクチン(と のワクチン)を使う予定のある大分県下の経営体では、あらかじめ、経営者(または接種作業責任者)はもちろん、接種作業を行う全員が、「注射ワクチン接種技術講習会」を受講しておかなければなりません。今年はすでに、臼杵市で1回、蒲江町で2回実施しており、6月6日にも上浦町で開催予定です。講習会は受講希望があれば、原則的にいつでも(土日曜日、祭日、年末年始を除く)開催可能ですので、所属の漁業協同組合、大分県かん水養殖協議会(0972-32-2615)等に相談して下さい。もちろん、海洋水産研究センター(養殖環境部)まで直接問い合わせていただいてもけっこうです。

講習会を受講された方は、受講修了者名簿に登録され、登録番号が通知されます。登録期間は1年間ですが、登録期間中にワクチン接種(注射)作業に従事した方は、自動的に登録期間が1年延長されます。1年間注射作業に従事しない場合、登録は失効しますので注意して下さい(作業予定のある方だけが受講して下さい)。

3. ワクチンを購入するには？

ワクチン使用指導書交付申請をしましょう

ワクチンの種類(注射、経口)にかかわらず、水産用ワクチンを購入するには、ワクチン使用指導書を販売店に提出しなければなりません。指導書が必要な方は、指導書交付申請書(講習会でも配布していますが、ワクチン販売店にも置いてます)に必要な事項を記載、押印のうえ海洋水産研究センターに提出(持参または送付)して下さい。ただし、注射ワクチンの場合には、講習会受講済みの接種作業予定者氏名と登録番号を明記しなければなりません。

海洋水産研究センターでは申請書にしたがい審査し、ワクチンが適正に使用されると判断された場合に指導書を発行いたします。指導書は中央に切取線があり、右半分を販売店に提出してワクチンを購入し、右半分は大切に(1年間以上)保管しておいて下さい(後に必要になります)。

最近、ワクチン投与予定日の直前に申請書が提出されるケースが多くなっています。申請書の発行には数日かかりますので、間に合わないことがあります。投与予定日の1週間前をめどに申請するよう心がけて下さい。

4. ワクチンの使用法は？

定められた用法・用量、及び使用上の注意等を厳守しましょう

赤潮情報が携帯電話でいつでも・どこでも 見られるようになりました

今年度から赤潮情報が携帯電話（インターネットURLの書き込み可能機種）で確認できるようになりました。現場に出ていて、潮の色が悪いとき、他の海域の様子が気になるときなど、携帯電話一つでその場で赤潮情報が見られます。アドレスは <http://www.mfs.pref.oita.jp/mobile/akashio.htm> です。たくさんのアクセスお待ちしております。なお海洋水産研究センターホームページ（<http://www.mfs.pref.oita.jp/>）でも、より詳しい赤潮情報が確認することができます。こちらもよろしくお願いします。

＊携帯電話用の赤潮情報は画面の都合上、詳細な情報は提供できません、詳細なデータが必要な方は海洋水産研究センターホームページまたは漁協、地方振興局、海洋水産研究センターまで御連絡ください。（宮村）

かん水だより

－講習会・定期総会のご案内－

来る6月29日（金）に佐伯文化会館中ホールにて予定されております第37期定期総会と併行して魚類養殖講習会の開催を予定しています。講習会の講師として、鹿児島大学水産学部教授門脇秀策氏と愛媛県魚病指導センター主任川上秀昌氏をお招きすることにしております。

門脇教授は東町の同大学実験所に長年勤務され同漁協の漁場環境調査の指導をされてきた方で講演内容として『アオサ、ナマコ、クルマエビ等海産動植物による魚類養殖場の水質・底質環境浄化』を、川上主任は愛媛県の第一線で魚病対策について活躍されている方で『愛媛県の魚病発生状況について』を、お話ししていただくことになっています。この機会をお見逃しなく会員・関係者多数お誘い合わせのうえ、是非ご聴講下さいますようご案内します。

なお、会員・関係者には6月11日（月）開催の役員会終了後、公文書で正式にご案内いたします。（事務局 平川）

購入したワクチンには、用法・用量、及び使用上の注意等を記した文書が添付されておりますので、これを厳守して適正な投与を行って下さい。ワクチン(製品)の種類が増え、それぞれの製品で使用上の注意が異なりますので、必ず目を通してから使用して下さい。海洋水産研究センターは必要に応じて現場調査を行い、ワクチンの適正な使用ができないと判断された場合には、ワクチンの投与を中止するよう指示することがあります。不正使用が発覚した経営体に対しては次年度の指導書の交付を行いませんので、注意して下さい。

特に注射ワクチンの場合、1本の注射針で最大2,000～5,000尾の魚に接種することになります。投与予定魚に病魚がいて、注射によって人為的に病気を広げる恐れがありますので、指導書が交付された後に、魚群に病気の兆候が見られたときは、作業を延期(中止)して下さい。

5. ワクチンを使用したあとは？

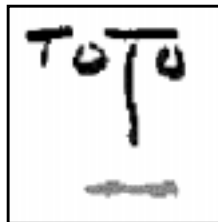
魚はしばらく安静に、使用者は結果を報告しましょう

ワクチンを投与した魚は、1週間程度安静に努め、移動や選別等はひかえるようにして下さい。

また、指導書発行の際に、ワクチン使用結果報告書の様式をお渡しいたします。ワクチン投与後は魚をよく観察し、副作用の有無、ワクチン効果の有無を記載して投与予定日から6か月(180日)以内に(忘れないうちに)海洋水産研究センターへ提出して下さい。報告書提出のない経営体はワクチンの適正な使用ができないと判断され、次年度のワクチン使用ができなくなることがあります。

以上、注射ワクチン使用の概略を説明したつもりですが、不明な点やご意見等ございましたら、筆者(福田)まで遠慮なく問い合わせてください。

余談： ワクチンの注射には水産用の連続注射器を使用します。ご存じの方も多いと思いますが、ピストル型の注射器です。というわけで、今回のサブタイトルには、Gun「銃」に関係する曲を選びました。70年代後半から80年代前半に活躍した米国のロックバンド「トト」のアルバム「ターン バック」→からの1曲です。筆者が大分県に就職する直前に友人からもらった思い出深い1枚です。かれこれ20年が経過しました(私も年だなあ)。



(福田)

* by TOTO(1981)